

令和8年度 府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式

原爆投下から81年を迎えた令和8年8月6日、原爆慰霊碑のある役場前河川敷で、府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が行われ、町内小中学校の児童会・生徒会の代表が参加しました。式では、各小中学校の代表が、各校で作成した千羽鶴を奉獻するとともに、平和へのメッセージを述べました。

平和へのメッセージ

「平和を学習する意味ってなに。」

ある時、小学生からこう質問されました。自分も小学生のころから平和について学んできたはずなのに、その時の私は納得できる答えをだすことができませんでした。

「なぜ、私たちは平和について学ぶのか。」

その問いの答えを考えながら、平和学習で平和公園を訪れました。資料館で当時の様子を目の当たりにし、今の生活では起こり得ないはずの光景に「もし自分がその場にいたら。」と恐怖を覚えました。81年前の今日、ヒロシマで、多くの尊い命が一瞬にして奪われたのです。そして、ここ、府中町でも、町内で被爆した方、市内から逃げてきた方、多くの方が亡くなりました。

その後、平和学習がさらに「自分ごと」として強く感じられるようになったきっかけがありました。それは、恐ろしく苦しい現実にあった出来事を話される被爆証言者の姿です。自分が体験していない過去を想像することは簡単ではありませんが、被爆証言者の方々が目の前で語ってくださるからこそ、資料には書かれていない当時の苦しみや辛さを肌で感じ、「自分ごと」として受け取ることができました。

原爆投下から81年経った今、私たちは被爆者から話を聞ける最後の世代になりつつあります。戦争を遠い昔の出来事としてではなく、今を生きる私たちに関わる問題として考えること。被爆された方々の思いを受け止め、想像し、考え、未来へ伝えていくこと。これこそが、私たちが平和を学ぶ意味なのだと考えました。

「ヒロシマから世界へ。」

私たちは、原爆が投下されたヒロシマで起きた悲慘な過去から学び、自分たちが進むべき平和に向けた道を確認に歩み、何十年何百年未来へ、そして世界へと語り継いでいきます。それが、ヒロシマに生きる者の使命なのではないでしょうか。

しかし、平和への願いが広がる一方で、今もホルムズ海峡をめぐって軍事衝突が起こるなど、世界各地で紛争や対立が続いています。世界平和を実現するためには、一人ひとりが平和について考え、相手を思いやる行動を小さなことでも実行することが、確かな一歩になると信じています。

「過去から学び、今を捉え、未来へつなぐ。」

私たち府中町に住む小中学生は、平和の願いを込めたバトンを確かに受け取り、後世に託すまで、一歩ずつ進み続けます。

府中中学校 稲見 幸奈

府中緑ヶ丘中学校 三戸 憲太



府中小



南小



東小



北小



府中中



府中中



府中中学校 稲見さん、府中緑ヶ丘中学校 三戸さんが、原稿を見ることなく、言葉に思いを込めて語る姿からは、これからの平和な未来を自らの手で創っていくという思いが伝わってきました。



町内小中学校の児童生徒が平和への祈りを込めて作成した千羽鶴を、各校から1名ずつ選ばれた代表者が奉獻しました。



府中緑ヶ丘中